

# 2022年度 事業計画書

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

学校法人 明星学苑

## 目次

はじめに	2 ページ
I. 明星学苑の建学の精神とその実現	3 ページ
II. 明星学苑全体の事業計画の概要	5 ページ
1. 学苑全体の基本方針	
2. 基本方針に基づく重点目標	
3. 明星学苑 組織機構図	
III. 当該年度の各部門の事業計画の概要	8 ページ
1. 明星大学・大学院	
2. 府中校	
・明星中学校・高等学校	
・明星小学校	
・明星幼稚園	
IV. 2022 年度予算の概要	18 ページ
参考資料	19 ページ
別表 1. 資金収支予算書	
別表 2. 事業活動収支予算書	

## はじめに

---

日頃より、学校法人明星学苑の教育活動に多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。  
「2022年度 明星学苑事業計画書」が完成しましたので公開いたします。

明星学苑は、2023年に創立100周年を迎えます。1923年（大正12年）に明星実務学校として創立し、その後、中学への改組・高校開校、戦後の住宅難の先生方が明星中の寄宿舎に住まわれ、そのお子様達のための幼稚園開園、そして小学校の開校へと続きました。

明星大学は、明星学苑創立40周年記念事業の一環として、1964年（昭和39年）に開学しました。



この間、明星学苑は多くの保護者、社会で活躍する10万人を超える卒業生、また明星学苑を応援していただいていた地域の皆様、その他多くの皆様に支えられて発展して参りました。

この100年の歴史は、明星学苑にとって大切であることは言うまでもありません。そしてそれ以上に、これから先も100年続く学校になるために何を為すべきかを考え、実行していくことがより重要なことだと思っております。

現代の社会は変化の激しい時代にあります。AI・ICTの技術革新によるデジタルトランスフォーメーション、超スマート社会（Society5.0）の到来、地球環境問題など真に予測困難で不確実な時代です。しかし、どのような時代が来ようとその中で自立し社会で活躍し、社会に貢献できる力を持った人を養成するのが明星教育の使命です。

そのためには、時代の要請に応え、常に教育内容を刷新していく不断の教育改革と教育投資が必要です。この創立100周年を機に、次の100年を見据えた明星学苑のビジョンである「Next100ビジョン」を作成致しました。「世界に貢献する人の育成」「体験教育」「手塩にかける教育」「健康・真面目・努力」など、明星教育の原点をしっかりと踏まえ、これからの社会の変化の中で明星教育が目指す姿を示すビジョンと教育目標を定めました。

時代と社会が求める教育の質の向上、教育環境の整備、学生生徒支援、明星学苑が深く根差した多摩地域社会へ貢献する様々な活動、これらの事業を明星学苑をあげて展開していきます。

学生・生徒等、および卒業生やその保護者等、多くのステークホルダーのための明星学苑として存在し続けることができるよう努めて参りますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

## Ⅰ. 明星学苑の建学の精神とその実現

---

本学苑は、建学の精神「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」ことをもって、持続可能な社会づくりに寄与することをその使命とします。

- 教育方針
  - 1. 人格接触による手塩にかける教育
  - 2. 凝念を通じて心の力を鍛える教育
  - 3. 実践躬行の体験教育

- 校訓 健康、真面目、努力

そして、明星学苑創立 100 周年を機に、次の 100 年を見据えた明星学苑及び各設置校園の新たなビジョン・教育目標を作成しました。

### Next100 学苑ビジョン

自ら変革し続け、新たな時代、新たな世界を謳歌する人間性あふれる卒業生を輩出する学苑

### 明星大学のビジョン・教育目標

#### ○ビジョン

- ・新たな時代を世界の人々と共創する大学
- ・多摩に根差し、地域に貢献する大学

#### ○教育目標

生涯にわたり自律的に学び続け、みなと協働して幸福を生み出していく人の育成

### 明星中学校・高等学校のビジョン・教育目標

#### ○ビジョン

- ・世界のトレンドに適応し続けるイノベーティブな学校
- ・人と自然を愛し、自他の価値を大切にする学校
- ・生徒と教師がともに成長し誇りを持てる学校

#### ○教育目標

自分の未来をデザインし共創していける人の育成

### 明星小学校のビジョン・教育目標

#### ○ビジョン

- ・自ら問いかけ、考え、行動し、自己表現できる人を育む学校
- ・知的な好奇心と探究心、論理的思考力をもった人を育む学校
- ・共生・共創できる、心豊かな人を育む学校

#### ○教育目標

「賢さ」と「豊かさ」を兼ね備えた、輝きをもった人の育成

### 明星幼稚園のビジョン・教育目標

#### ○ビジョン

- ・すべての園児が自信をもって生活できる幼稚園
- ・自分だけでなく、友だちを大切にできる幼稚園
- ・好奇心を育み、自分の「好き」をたくさんみつけれられる幼稚園

#### ○教育目標

多様性を認め、未来を切りひらく子の育成

## II. 明星学苑全体の事業計画の概要

---

### 1. 学苑全体の基本方針（学苑中期経営計画より）

本学苑が、「教育の明星」に相応しい教育を行うための不断の教育改革を推進していくため、その基本的条件となる安定的・永続的な経営基盤の強化に向けて、次の4つの柱を基軸に取り組んでいきます。

#### (1) 「教育の明星」の具現化

各設置校における教育内容の質的向上と質保証の徹底を図り、特色ある教育内容を社会に発信し、教育界をリードしていくための改革

#### (2) 業務改革と働き方改革の推進

現在行っている業務全般を見直すとともに、教職員の力を最大限発揮し、変化に即応できる強い組織となるための変革

#### (3) 財務基盤の強化

明星学苑の持続的な発展に向けて、環境の変化に柔軟に対応できる財務構造を作っていくための収支の均衡

#### (4) 経営計画の実行体制の整備

教育改革及び業務改革、収支の改善を着実に実行していくための経営改革

### 2. 基本方針に基づく重点目標

次の100年に向け、教育機関として維持・発展していくためには、基本方針に基づく重点目標として、「ガバナンス体制」「教育の充実」「経営力強化」「コンプライアンス」の推進が求められます。本学苑は2022年度より、この4つの重点目標に紐づく目標項目と達成目標を明確化し、取り組んでいきます。

#### ■ ガバナンス体制

##### ○ ガバナンス（理事会のリーダーシップ）

本学苑の理事会のリーダーシップを機能させるべく、今後見直される私立学校法の改正案に準拠した理事会・評議員会に再構築します。また、ガバナンスコードを策定し、学生生徒等や保護者を中心としたステークホルダーに対する説明責任を果たすとともに、学苑の運営方針や方針に基づく成果を主体的に点検し、成長と発展に繋がります。

##### ○ 社会貢献（ステークホルダーへの貢献）

これまでの100年を支えていただいた多摩地域に対し、学苑創立100周年事業を通して学苑・設置校教職員・学生生徒等による地域共創活動を展開します。多くのステー

クホルダーと連携し、地域の課題と真摯に向き合い、そして、教育・研究の成果として新たな価値を生み出すことで、本学苑と多摩地域がともに成長していくことを目指します。

## ■ 教学の充実

### ○ 創立 100 周年に向けたビジョンの具現化

新たなビジョンを具現化するために、2023 年度に始動する「第 4 期中期経営計画・財務計画」及び各設置校の中期事業計画を策定します。そして、明星学苑全体が体系的に一体感ある教学を展開するため、学苑内の部門間連携の協定締結を進め、継続的かつ特色あるプログラムを実施します。

## ■ 経営力の強化

### ○ 業務プロセスの見直し

社会のニーズと本学を取り巻く環境を踏まえ、廃止すべき業務の洗い出しと実行を進めていきます。この点検によって実施すべき業務がより明確化し、効果的な資源の投入や、スピード感のある意思決定、そして、教職員にゆとりをもたらす効果が期待できます。また、業務のペーパーレス化を含むデジタル化を推進します。

### ○ 多摩地域に根付く経営基盤の構築

多摩地域における本学苑の存在意義は、多摩地域に住む学生や生徒たちが未来に向かって学ぶことを最大限にサポートすること、そして、多摩地域にある各連携機関との関係強化を進めることで、学生や生徒たちに地域性を踏まえた実践的な教育を提供し、新たな価値を生み出していくことにあります。そのためにも、多摩地域からの安定的な入学者受け入れや卒業後の進路を充実させる方策に加え、その実現に向けて連携機関との具体的な関係強化策を策定していきます。

## ■ コンプライアンス

### ○ 不正・ハラスメントを許さない体制の構築

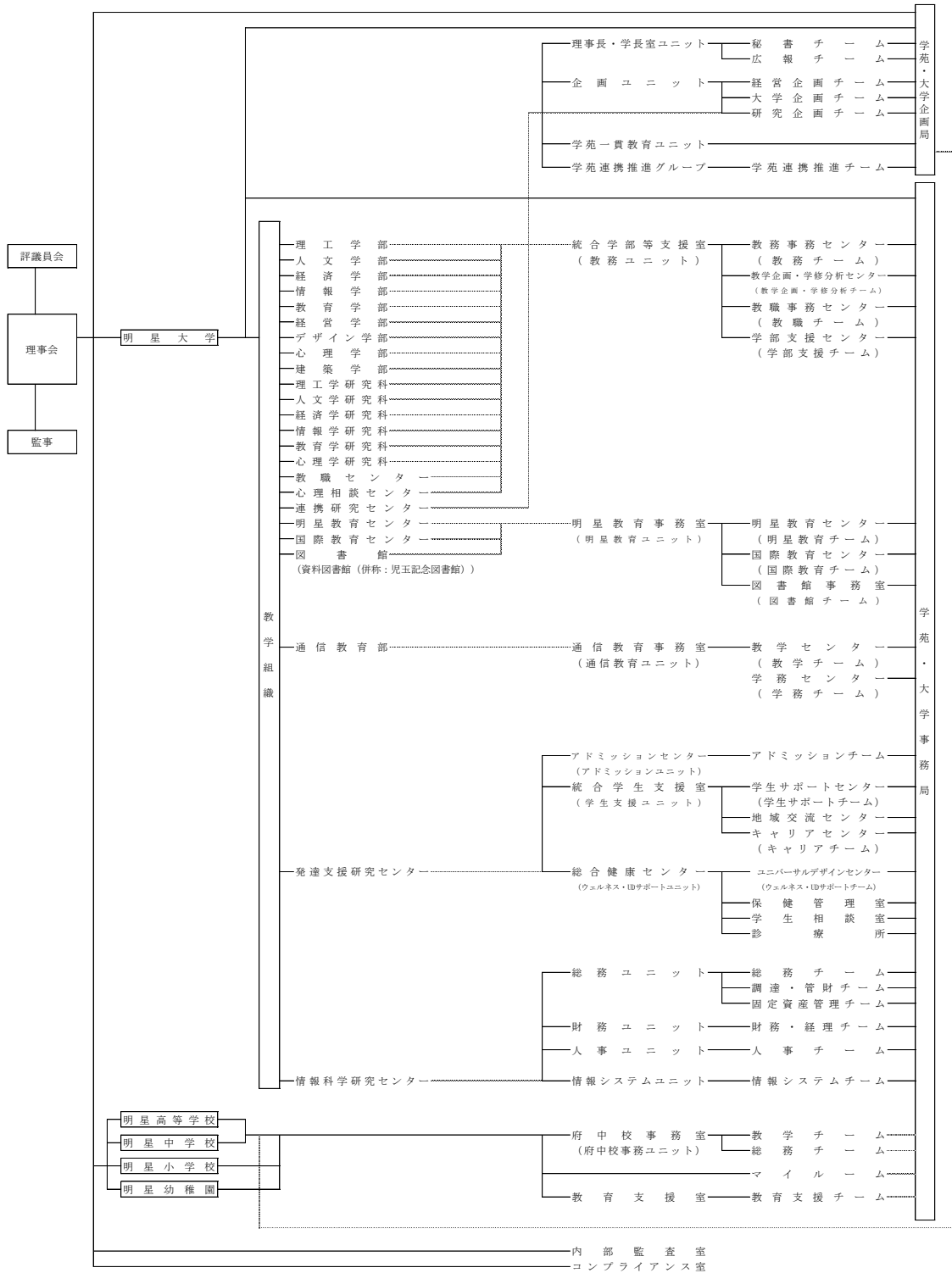
学生生徒等及び教職員をはじめとする本学苑の関係者の人格や尊厳を守るべく、コンプライアンス基本方針を策定し公表します。また、持続可能な社会、望ましい職場を実現するための前向きな取組みの一環として、既存の「コンプライアンス委員会」の役割を見直し、法令等のルール、社会規範及び建学の精神に則った教育研究機関に相応しい体制を構築します。

これらの基本方針に基づく重点目標の達成に向け、今後、理事会の自己点検・評価機能を高めていきます。

### 3. 学校法人明星学苑 組織機構図 (2022年4月)

学校法人明星学苑 組織機構図

(2022年4月)



業務改革推進グループ：2020年度に理事長の直下に設置した「業務改革推進グループ」において、業務プロセスの改革、業務のIT化等の業務

改革を推進します。尚、「業務改革推進グループ」は2023年度末までの時限的組織です。



### III. 当該年度の各部門の事業計画の概要

#### 1. 明星大学・大学院

##### (1) 新ビジョン・教育目標

明星大学は、設置者である学校法人明星学苑が学苑創立 100 周年を迎えることを契機に策定した新たなビジョン「自ら変革し続け、新たな時代、新たな世界を謳歌する人間性あふれる卒業生を輩出する学苑」に基づき、学苑の高等教育機関として、次の新ビジョン・教育目標を策定しました。

ビジョン	・新たな時代を世界の人々と共創する大学 ・多摩に根差し、地域に貢献する大学
教育目標	生涯にわたり自律的に学び続け、みなと協働して幸福を生み出していく人の育成

これからの時代、卒業生はグローバルとローカルの間を往復しながら生きていくことになります。このことから、大学ビジョンは、学苑ビジョンを踏まえ、グローバル（世界の人々との新時代の共創）とローカル（多摩（あるいは他地域）への貢献）のふたつの観点から本学の将来像を示しています。

「新たな時代を世界の人々と共創する」とは、まさに「建学の精神」が謳う「世界に貢献する」ことにほかなりません。また、「多摩に根差す大学として地域に貢献する」とは、本学がその知・情・意の調和的進歩を多摩において実現することを意味します。このように、「大学ビジョン」は「建学の精神」の具現化を意図するものです。

大学の教育目標は、新たな「大学ビジョン」の実現に向け、「自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成」という従来の教育目標を再構築しています。

新たな時代においては、学びは一過性ものではありません。自己実現のためには、学びの持続と更新が不可欠です（「生涯にわたり自律的に学び続け」）。そして、他者との積極的な関わりの中で（「みなと協働して」）考え判断する能力を伸ばし合い、価値の創造（「幸福を生み出していく」）にともなに向かっていく姿勢が、多様性の時代における個人の生き方の基盤になります。

大学の「教育目標」は、「大学ビジョン」に根差した近未来の明星大学の教育目標です。それは、かねて学長が重視してきた「学び続ける力」と「協働する知性」の兼備をベースにしています。学生・卒業生には、個人と社会の幸福の増進に向け、このふたつの力の兼備とその常なる更新を人生観としてライフロングで実践してほしいと考えます。と同時に、ふたつの力を兼備し「みなと協働して幸福を生み出していく人の育成」は、教職員の変わらぬ教育的達成目標でもあります。その意味で、大学のこの新たな「教育目標」は、本学の教職学卒すべての日々の活動に手がかりを与えるものです。

## (2) 事業計画－重点事業

明星大学は、2023 年度に始動する「明星大学第 2 期中期事業計画（2023-2027）」に先駆けて、2022 年度に以下の重点事業に取り組んでいきます。

### ① 学修者本位の教育改革

明星大学は、学修者が入学から卒業に至る学修を自ら設計し、そのプロセスと結果を常に把握して必要な学修を意識的に加え、最終的には卒業によって自らの質保証を行い、そのことをもって「学修者本位」の学びの成就とします。この目的に向け、21 世紀社会において誰にも必要とされる【学び続ける力】と【協働する知性】の伸長を主要目的とする教育改革を推進します。また、9 学部 12 学科がワンキャンパスに集結しているという他大学にまれな本学の好条件を活かし、学外での体験学習も含めた、垣根を越えていく学修の型「クロッシング」（分野交差）を重視した教育改革を実施し、「教育の明星大学」の際立った個性として打ち出します。具体的には、2023 年度に実施予定の理工学部をはじめとした全学的なカリキュラム改正、キャリア教育プログラムの再構築、受験生・在学生と本学教育のマッチング向上に向けた取組み、そして、特色ある明星教育としての「第四の学修の場」の形成を推進します。

### ② DX 時代に適合した人材育成

デジタル化からデジタルデータ活用の DX 時代へと、社会は急速に変化しており、学生は 21 世紀 DX 社会が求める知識や技能、適応力を身につける必要があります。その力を涵養するため、現在構想中の「明星大学データサイエンス学環」（仮称、2023 年 4 月に開設予定）を中心とした「明星大学 DX 教育」を新たに設計し、実現を図ります。

### ③ 教学マネジメントシステムの充実

学修者本位の教育の質の向上のため、3つのポリシーに基づく教育の実質化を軸に、学修成果の把握・可視化等を踏まえた本学独自の教学マネジメントシステムや、DP 達成度評価（仮称）の仕組みを整備します。本学の掲げる学修者本位の教育とは、上記のように、学修のプロセスと学修の成果を学修者が自己管理し、学修の成果とそこに至る過程を学修者が実感できる教育を実践することです。それは、生涯にわたり自律的に学び続け、みなと協働して幸福を生み出していく学修者の育成が大切だからです。これを実現するため、新たな内部質保証推進体制の下、自己点検・評価活動、外部評価制度の構築、そして、次期認証評価へ向けた取組みを促進します。

### ④ 多摩地域との共創に向けた環境整備

新たなビジョンの下、多摩地域（ローカル）で学び、グローバルに活躍し、世界の人々と新時代を共創できる人材を育成するためには、多摩地域との積極的な連携活動を通じて、多摩地域と共に成長、成熟していくことが求められます。本学は、豊富な資源をもつ多摩地域の魅力を生かし、共創し、新しい価値やイノベーションを生み出

す環境整備に取り組んでいきます。

### ⑤ 明星大学第2期中期事業計画の策定

本学は2017年度に策定した中期事業計画に基づき、教育・研究・社会貢献に係る様々な事業を展開してきましたが、昨今の社会変化や今般のコロナ禍による環境の変化は、策定時点では想定しえなかった規模とスピードで進んでおり、これらに対応し得る新たな事業計画が必要となります。2021年度に設置した「学校法人明星学苑経営委員会大学部会」及び「明星大学第2期中期事業計画策定WG」を中心に、自律的な教学運営体制の整備や大学院・通信教育部等の教学組織の再編を見据え、社会のニーズを踏まえた持続的成長を実現するための中期事業計画を策定していきます。

### (3) 「明星大学教育新構想」(2020年6月学長発信)

#### 志

- ・明星大学は、明星学苑第二世紀を前に「建学の精神」を改めて実践躬行し、明星だからできる、明星でなければできない教育的特色を打ち出し、本学の存在理由を世に知らしめます。
- ・明星大学は、柔軟性とぶれない芯を併せ持つ「時代の変化に強い人間・大学」を教職学が共創する教育機関として発展します。
- ・この大志を遂げるために、新たな時代の社会理念 Do It With Others が求める【学び続ける力】と【協働する知性】を兼備した人間を育成します。

#### 方針

- ・理工系・人社系・融合系9学部12学科がワンキャンパスに集結するという稀有の利点を活かし、また学外からも学ぶ分野交差型のクロッシング教育を推進します。
- ・学生一人ひとりにとっての学びの価値や学び甲斐、モチベーションを重視する「学修者本位」を教学の中心理念とし、その実践の場のひとつとしてeポートフォリオを整備して、生涯にわたる【学び続ける力】の基盤とします。
- ・学修にデジタル技術を活用する教育テクノロジー (EdTech) の標準装備化を進めます。

#### 施策

- ・受験生・在学生と本学教育のマッチング相性・組み合わせの向上を教育改革の主眼とします。
- ・【学び続ける力】と【協働する知性】を兼備した人間を育成するために、専門教育「セントラル」と垣根を越える学習「クロッシング」で構成されるカリキュラムを打ち出し、本学の教育的特色を明示します。
- ・アフター／ウィズコロナ低移動時代を前提に、新たなグローバル化教育を進めます。

## 目標

- ・教育改革を進め、第3期認証評価2024年受審が大学基準として求める「内部質保証」および「教育課程・学修成果」に対応する教学マネジメントを進めるとともに、わが国高等教育界において個性の際立つ「教育の明星大学」としての地歩を固めます。
- ・学生が自信と自尊心と協働力を持って社会に羽ばたくための学修理念と学修環境を用意します。
- ・到達目標を可視化し、教職員が我が事として推進しがいのある改革を断行して、大学間大競争時代の勝者になります。

## 2. 府中校

幼稚園から高等学校までを擁する府中校においては、教育の効果がより高められる15ヵ年一貫教育体制をさらに進化させます。各設置校は「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」という建学の精神に基づき、21世紀のグローバル化社会、高度情報化社会、融合社会への大転換に柔軟に対応できる力を備えていくための基礎的な能力と人間力を身につけた園児、児童、生徒を育成するための新たなビジョン・教育目標を策定し、協働してその達成に向けて取り組んでいきます。特に、英語・国際、理数・情報教育及びSDGs等に重点的に取り組みます。

また、今後の少子化に対応するためには、多摩地域の人口動態、生徒・保護者の動向・ニーズ、競合する他校に係る調査研究等のIRデータを基に、募集対策に向けて中学校・高等学校、小学校及び幼稚園間の一層の連携強化を図ります。また、時代の要請に応える特色ある学校づくりや適正なクラスサイズなどの教育体制を確立するための将来構想を検討することが求められます。2022年度は、その将来構想を踏まえた各種対策を盛り込んだ中期事業計画を策定します。

### ■ 明星中学校・高等学校

#### (1) 新ビジョン・教育目標

明星中学校・高等学校では100周年を起点として、新たなステージへの展開を目指します。21世紀世界は大転換期を迎え日本や世界の社会の変化に応じて教育も大転換の時代に突入します。現在の社会トレンドであるDX、GX、SDGs、そして様々な融合への対応だけでなく、将来の新たなトレンドに対しても対応できる常にイノベーティブな学校であり続けることが求められています。また、明星中学校・高等学校は世界に貢献できる人を育成するという学苑の建学の精神のもと、教育方針、校訓、学苑の教育ビジョンに基づき、変化し続ける社会に敏感に対応しながらも人間性を重視した伝統を守り続ける学校でもあります。次の100年の明星においても、不易流行を重視しながらAI時代に即応する新しい教育方略への転換を図りつつ、師弟同行の精神で共に成長し、自ら

の将来を描き共創できる人の育成を目指すべく新教育ビジョンと新教育目標を策定いたしました。

ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のトレンドに適応し続けるイノベティブな学校</li> <li>・人と自然を愛し、自他の価値を大切にする学校</li> <li>・生徒と教師がともに成長し誇りを持てる学校</li> </ul>
教育目標	自分の未来をデザインし共創していける人の育成

## (2) 事業計画－重点事業

2022年度の事業計画－重点事業は以下の通りとします。

### ① 高等学校教育イノベーション推進

#### 【本科・SMGS・MGS 共通】

- ・ 全てのコースで心の教育・体験教育の伝統を重んじ、凝念の時間の充実を図ると共に、探究学習時間の確保と積極的推進に努めます。生徒会活動、体育祭、明星祭は共通活動・行事とし、学校へのロイヤルティを高めます。
- ・ 正課授業における ICT 機器利活用とアクティブ・ラーニングの積極的推進で新教育観への対応、及び新教育課程・新大学入試への対応を図ります。また、アクティブ・ラーニング、STEAM、SDGs への取組みを高めるために入試問題・学習教材の研究、専門講師の招聘、体験型研修の実施、各種大会・コンテストへの参加、研修会・研究会への教師派遣などを実施します。

#### 【本科】

- ・ 目に見える学力（基礎学力）の充実を図りながら、SDGs 活動を中心とした探究学習に重点を置き、目に見えない学力の養成を目指し、企画力・協働力・プレゼンテーション力の強化を図ります。また、校外学習を積極的に実施し体験学習の精度を高めます。これにより、本科の進学実績向上を目指します。
- ・ 本科の進学は推薦入試・総合型入試がメインとなり、前述の目に見えない学力を養成することで進学実績の向上に繋がります。また、明星大学特別推薦を最優先とし、正課の中に特別対策講座を設けます。指定校推薦、公募推薦、総合型入試に向けて組織的な指導体制を構築します。

#### 【SMGS※】

- ・ 最難関大学合格を目指すコースとしての学力対策に重きを置き、自学の時間を放課後に設定します (SMGS タイム)。さらに、進研模試等の成績確認会議を定期的開催し個別指導に繋がります。また、最難関大学合格に不可欠の教養を高め、思考力・表現力を養成するために、探究学習の中で外部講師の招聘や、外部コンテストや研究会へ参加します。
- ・ 全教科において優秀な教師の配置を行い、高 1・高 2 では複数担任制を取ります。

また、数学のティームティーチングやネイティブとのグローバル活動などを通して数学・英語への興味関心を高め成績向上を目指します。

※「SMGS」

2016年に明星の「グローバルサイエンスコース(MGS)」を開設し、このMGSをさらに進化させた最難関大学合格を目指す「スーパーMGSコース(SMGS)」を2020年に新設しました。

### 【MGS】

- ・ GMARCH合格を目標としたカリキュラム編成とし週36時間の正課授業とします。全員が国数英のGTZ(ベネッセ合格到達ゾーン)B判定以上を課し未到達者には特別指導を実施します。探究学習も学究的なものとし、入試突破学力養成に繋がります。
- ・ 2年次より、英語学習・グローバル体験に重点を置くMGクラス(明星グローバルクラス)と理系国立大学進学と理数教育に重点においたMSクラス(明星サイエンスクラス)に進化させGMARCHを目指します。

### ② 中高一貫教育イノベーション

- ・ 中学入学生は中高一貫コースとし、6年間クラス替えをしない特別選抜クラス(Tクラス)と総合クラス(Sクラス)編成とします。特別選抜クラスは中学1年全員を給付型奨学生とし、2年以降の奨学生はベネッセ学力到達度テスト・定期考査・学習態度等を総合的に判断して決定します。総合クラスは一貫4年(高校1年相当)までに高校MGS相当の学力・人間力養成を目指した指導を行います。
- ・ 6年間探究学習グランドデザインを策定し、明星独自の体験学習を実施します。その為に、AIロボット学習、英語グローバル学習の中学1年生からの導入、英語と数学の習熟度別授業展開、中学3年時から英語クラスの設置等を実施します。

### ③ SDGs活動を通じた府中・多摩地区への地域創成・地域活性化への貢献

- ・ 明星学苑創立100周年は地元である府中・多摩地区のおかげであり、明星学苑はこれまでも地元への人材輩出、地域活性化などに貢献してきましたが、地域のサステナブルが必須の21世紀社会では、SDGs活動を通して府中・多摩地区の地域創成・地域活性化へ貢献することは明星としての尊き責務であります。これを遂行するためにSDGs推進校として地域貢献を宣言し、生徒だけでなく地域住民の地域創成・活性化への意識醸成に取り組み、地域と協働して具体的連携実行項目を実践していきます。
- ・ 2022年度は地域貢献のスタートとして、府中市と地域活性化に関する協働協定を締結し、府中市から提示された20項目の連携事業に取り組みます。さらに、他の多摩地区への貢献拡大への研究・協議にも取り組みます。

### ④ 高大連携・高大接続の深化

- ・ 大学入学選抜方法の多様化に対応するために、明星大学との高大連携のさらなる深

化を図ります。高校3年間の高大連携グランドデザインを策定し、学部・学科が求める能力・知見・素養を身につけて進学できるようなプログラムを設計します。特に、学部・学科との高大連携講座は重要であり、実現に向けて取り組みます。2020年度は明星教育センター「自立と体験」、理工学部との連携講座をスタートさせ、他の学部・学科との連携にも研究・協議を続けます。

- ・ 明星大学特別推薦に関しては、担当副学長及びアドミッションセンターとの協議・検討を重ねて制度をさらに深化させ、優秀な人材の明星大学進学を目指します。
- ・ 東京農工大学、東京外国語大学や他の可能性のある大学との連携に向けて調査研究に着手します。また、SDGs 活動や探究活動を主体とした難関国公立大学推薦合格に向けての調査・研究も着手します。

## ■ 明星小学校

### (1) 新ビジョン・教育目標

明星小学校では、学苑の建学の精神に基づき、子どもたちの心が開き、学び、成長していく、さわやかな風が流れる学校を目指し、子どもたち、保護者、教職員一同がチームを組んで一緒に学校を創っています。

幸い、近年志願者数が増加傾向になっていますが、将来を見据えると他の設置校と同様に厳しい環境下にあると言えます。幼稚園入園者数の減少は数年のうちに確実に小学校にも影響を及ぼすと考えられ、不断の教育改革は喫緊の課題となっています。

こうした中で、明星小学校では2022年度より新たなビジョンと教育目標を掲げ、教職員が一体となって教育改革の取り組みを加速していきます。新たな教育ビジョン及び教育目標は次の通りです。

ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら問いかけ、考え、行動し、自己表現できる人を育む学校</li> <li>・ 知的好奇心と探究心、論理的思考力をもった人を育む学校</li> <li>・ 共生・共創できる、心豊かな人を育む学校</li> </ul>
教育目標	「賢さ」と「豊かさ」を兼ね備えた、輝きをもった人の育成

### (2) 事業計画－重点事業

#### ① 一貫教育の推進

明星小学校は、幼小連携、小中連携といった設置校連携の要として、府中校一貫教育において重要な役割を担っています。幼小連携は、幼稚園との「なだらかな連携」を軸として展開しはじめているところであり、明星中学校との連携は、教員交流をはじめとして中学校教員が小学校で授業を受け持つことを中心に展開してきています。2022年度は、これらの活動を体系化し、連携を強化することで授業や活動を充実させ、同時に明星幼稚園から明星小学校へ、明星小学校から明星中学校への内部進学者増を図っていきます。

#### ② 「探究」活動の推進－SDGs 活動への参画－

明星小学校では、「探究」を一つのキーワードとして、教科及び総合活動（くぬぎぬぎの時間）を活用して、探究力、自ら学ぶ力、学び続ける力、知的好奇心と論理的思考力、表現力（企画力、プレゼン力、コミュニケーション力）、創造性、人間性、の育成を図るべく研究を進めています。また、実生活や教科学習との関連を図りながら、SDGs や STEAM 教育との融合を図っています。

府中校では、SDGs への取組みを積極的に行っており、小学校では 2021 年度はペットボトル削減の取組みへの協力や環境問題に関する学習活動などを行っています。こうした取組みを 2022 年度は「探究」と積極的にリンクし進化させ、子どもの目線からみた現象や事柄について、問題意識の形成、課題設定、課題解決へと結びつく活動をより充実させていきたいと考えます。さらに、子どもたちには、与えられた課題に取り組むだけでなく、様々な社会課題や身近な問題を自分事として捉え、持続可能な社会を構成する一員としての自覚の萌芽となるような活動へ参画する機会を提供し、これらの体験教育を積み重ねていながら、中学校から本格的にはじまる SDGs 活動に繋げていきたいと考えます。

### ③ 教育力向上

これからの社会に必要なグローバル力を育む「英語力」「理数力」「先進的プログラミング」を重視した教育、深い学びと豊かな心を育む五感を通して感動を体験する教育を重視し、子ども一人ひとりの資質・能力を育てていきます。また、教師の高い資質・授業力の更なる向上を目指し、教師の授業力（授業観・教材研究力・学習指導力・人間性）を豊かなものとしていくため、授業研究会の強化、外部への発信（公開授業研究会）を積極的に行っていきます。

### ④ 幼小広報活動の強化

前述の通り、初等中等教育が厳しい環境下に晒され、この先の見通しについては、少子化をはじめとして楽観視できる材料は乏しく、いかに他校との差別化を図り、特色を打ち出していくかが問われています。

府中校は、広い敷地と緑豊かな多摩に 100 年存在し続けたというアドバンテージを持っています。このアドバンテージをこれまで以上に活用し、特色ある教育内容と子どもたちの成長には欠かせない豊かな教育環境を、受験生、保護者及び塾関係者等のステークホルダーに効果的にアピールしていきたいと思っています。その際、小学校単体での広報のみならず、幼小連携や小中連携といった 15 年間のストーリーにおいて子どもたちを確実に成長させ、夢や希望をもって次のステージや新しい時代へと送り出すことができる学校として打ち出していきたいと考えます。

小学校はこの 15 年間の一貫教育の中心となり、幼稚園から高等学校までのカリキュラムを繋ぎ、ビジョンと教育目標を具現化するため、「英語教育」「理数教育」「ICT・プログラミング」の教育内容、授業手法の一層の充実を図り、教育改革を実行していきます。



## ■ 明星幼稚園

### (1) 新ビジョン・教育目標

幼稚園の新たなビジョンは、10年後20年後の自己実現に向けての第一歩を大切に育むため、自分が受け入れられているという自己肯定感を持ちながら、自分や相手の感情など様々な要因に配慮し行動できることを重視しています。また、明星幼稚園での活動において、全ての子どもたちが「自ら選択した」という意識づけを重要と考えています。そして、その感情に教員が寄り添うことで「やっぱりこうしたい」という自発的な活動を増やしていくことが、「自分の『好き』をたくさんみつけれられる」ことに繋がっていきます。

そして、新たな教育目標は、ビジョンの実現を図るために、これまでの教育目標である「よい子の育成」を再編成したものです。自分の思いや発想を自由に表現できる環境の中、他者との違いを認めながら、未来の夢を描くことができる子どもの育成を目指します。

ビジョン	・すべての園児が自信をもって生活できる幼稚園 ・自分だけでなく、友だちを大切にできる幼稚園 ・好奇心を育み、自分の「好き」をたくさんみつけれられる幼稚園
教育目標	多様性を認め、未来を切りひらく子の育成

### (2) 事業計画－重点事業

少子化に向かう市場動向を踏まえ、1)教育(保育)の高付加価値化により、質の高い教育(保育)内容の特色化を図りブランディングを向上させるとともに、2)明星幼稚園から明星小学校に内部進学する層を厚くし、教育内容の改革と経営の安定化を目指します。

#### ① 教育の柱

明星幼稚園の新たなビジョン及び教育目標を実現するため、幼稚園での「遊びに意図」を持たせる「探究活動」(めばえの時間)を骨格に据え、日々の保育活動及び各行事を実践していきます。この「探究活動」(めばえの時間)は、「言語」「理数」「芸術」の各分野で新たな気づきや発見を促すだけでなく、各学年で、3年保育としての体系性を担保しており、このカリキュラムを実践することで学びの深化を図っていきます。

#### ② 幼小連携

上述の「探究活動」(めばえの時間)のカリキュラムは、明星小学校における「探究学習」(くぬぎの時間)になだらかに接続するような設計にしています。このカリキュラム構成によって、明星幼稚園から明星小学校に内部進学する園児たちは、「なだらかな接続」を通して、幼稚園での学びから小学校への学びという全く異なるステージに上がっても、それまでの経験を生かしたステップアップが可能となります。

### ③ 教員の教育力

2021年度に東京都私立学校研究助成事業の採択を受け、2件の保育研究を実行するなど、日々のたゆまぬ研究活動を通じて、その成果を園児たちに還元できる幼稚園を確立し、将来的には日本の保育をリードできる教員の教育力の実現を目指します。

2022年度は、2023年度の教育改革の本格始動に向けて、教員の資質向上が一層問われる年になることから、明星小学校長等による「遊びに意図」を持たせる保育をテーマに、教員の教育力向上を企図した研修を実施していきます。

### ④ 保育環境の整備

「探究活動」（めばえの時間）を実践する上で、重要な教育手段である遊具等のあり方についても見直しが必要です。今後は、小学校と連携しながら幼児期の理数的思考等がいかに育成できるかを研究し、必要な遊具を5年程度で順次整備していくための計画を策定し、ブランド力の定着化に寄与することを目指します。

### ⑤ 教育内容の改革を実現する組織経営

教育改革を実現するために、幼小教員の人事交流を実施し、幼稚園と小学校の連携を図ることで内部進学者が安心して小学校へ進学できる環境整備を強化します。また、幼小一体の教育カリキュラム、幼小一体の組織運営を目指し、外部に対して積極的に訴求していきます。

## IV. 2022 年度予算の概要

---

学苑の適切な収支バランスと安定は、社会環境の変化に対応するため、そして不断の教育改革に必要であり、将来に亘る学苑の持続的成長を促進し、学苑の教育・研究・社会貢献活動の諸条件を整備することに繋がります。本学苑は、現在の厳しい財務状況の改善に向け、中長期的な財政計画の策定と実行及び収支構造の見直し、経営改善に向けた予算策定と執行を行い、財務基盤の強化を図ります。

### ○ 資金収支について（金額については百万円未満四捨五入で表示）

資金収支予算書については、別表 1 の通りです。

学生生徒等納付金収入は 12,310 百万円を計上し、前年度予算と比較して 122 百万円減となっています。補助金収入は 2,513 百万円を計上し、前年度予算比 112 百万円増となっています。

人件費支出については 9,103 百万円を計上し、前年度予算比 179 百万円減となり、そのうち教職員等人件費支出については前年度予算比 210 百万円の減、退職金支出については前年度予算比 31 百万円の増となりました。

教育研究経費支出は 4,127 百万円を計上し、前年度予算比 145 百万円増となり、管理経費支出は 1,399 百万円を計上し、前年度予算比 211 百万円増となりました。

施設関係支出は 218 百万円を計上し、前年度予算比 148 百万円減となり、設備関係支出は 596 百万円を計上し、前年度予算比 115 百万円増となりました。

資産運用支出は 4,161 百万円を計上し、前年予算比 1,588 百万円増となりました。

この結果、翌年度繰越支払資金は 1,556 百万円となり、前年度予算比 2,536 百万円減となりました。

### ○ 事業活動収支について（金額については百万円未満四捨五入で表示）

事業活動収支予算書については、別表 2 の通りです。

教育活動収入については 15,724 百万円を計上し、前年度予算と比較して 41 百万円増となり、教育活動支出については 16,672 百万円を計上し、前年度予算比 285 百万円減となりました。

教育活動外収入については 317 百万円を計上し、前年度予算比 14 百万円増となり、教育活動外支出の計上はありません。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合算した経常収支差額については、631 百万円の支出超過となり、前年度予算比 339 百万円の改善となりました。

経常収支差額に、特別収支差額及び予備費（2022 年度は計上なし）を加えた基本金組入前当年度収支差額は、601 百万円の支出超過となり、そこから基本金組入額を差し引いた当年度収支差額は 618 百万円の支出超過となりました。当年度収支差額と前年度繰越収支差額を合計した翌年度繰越収支差額は、28,665 百万円の支出超過となりました。

## 参考資料

別表1 資金収支予算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで (単位:百万円)

収入の部			
科目	当年度予算	前年度予算	増減(▲)
学生生徒等納付金収入	12,310	12,432	▲ 122
手数料収入	328	424	▲ 96
寄付金収入	193	68	125
補助金収入	2,513	2,401	112
資産売却収入	1,099	897	202
付随事業・収益事業収入	134	156	▲ 22
受取利息・配当金収入	317	303	14
雑収入	261	243	18
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,827	2,102	▲ 275
その他の収入	331	337	▲ 6
資金収入調整勘定	▲ 2,324	▲ 2,353	29
前年度繰越支払資金	4,092	5,177	▲ 1,085
収入の部合計	21,081	22,187	▲ 1,106

支出の部			
科目	当年度予算	前年度予算	増減(▲)
人件費支出	9,103	9,282	▲ 179
(教職員等人件費支出)	8,906	9,116	▲ 210
(退職金支出)	197	166	31
教育研究経費支出	4,127	3,982	145
管理経費支出	1,399	1,188	211
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	218	366	▲ 148
設備関係支出	596	481	115
資産運用支出	4,161	2,573	1,588
その他の支出	1,116	1,219	▲ 103
[予備費]	0	0	0
資金支出調整勘定	▲ 1,194	▲ 996	▲ 198
翌年度繰越支払資金	1,556	4,092	▲ 2,536
支出の部合計	21,081	22,187	▲ 1,106

※百万円未満四捨五入のため一部端数に差異が生じている。

別表2 事業活動収支予算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで (単位:百万円)

収入の部			
科目	当年度予算	前年度予算	増減(▲)
学生生徒等納付金	12,310	12,432	▲ 122
手数料	328	424	▲ 96
寄付金	194	69	124
経常費等補助金	2,498	2,360	138
付随事業収入	134	156	▲ 22
雑収入	261	243	18
教育活動収入計	15,724	15,684	41
人件費	9,165	9,356	▲ 191
教育研究経費	5,767	5,943	▲ 176
管理経費	1,741	1,659	82
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	16,672	16,957	▲ 285
教育活動収支差額	▲ 948	▲ 1,274	326
受取利息・配当金	317	303	14
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	317	303	14
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	317	303	14
経常収支差額	▲ 631	▲ 970	339
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	36	58	▲ 22
特別収入計	36	58	▲ 22
資産処分差額	6	217	▲ 211
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	6	217	▲ 211
特別収支差額	30	▲ 160	190
[予備費]	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額	▲ 601	▲ 1,130	529
基本金組入額	▲ 17	0	▲ 17
当年度収支差額	▲ 618	▲ 1,130	512
前年度繰越収支差額	▲ 28,047	▲ 27,038	▲ 1,009
基本金取崩額	0	121	▲ 121
翌年度繰越収支差額	▲ 28,665	▲ 28,047	▲ 618
(参考)			
事業活動収入計	16,078	16,045	33
事業活動支出計	16,679	17,175	▲ 496

※百万円未満四捨五入のため一部端数に差異が生じている。